

## カリンチョック 後編

田中 規雄

12月30日～1月9日（1月2日から記載）

黒百合 5月号に続く後編です。私の筆もビスタ～リ（ゆっくり）♪・・・などとツマラナイこと言っていないで、はよう書かんかい。

1月2日：7時起床、7時45分宿泊代の10\$払い宿を出る。この金額が高い！と思ったら貴方もネパール通。ツルーはバイクで迎えに来たが、バイクはここにデポしローカル線のバス停まで歩いていく。バイクはサン・タマン（弟）が回収に来る由。バス停は日本のバス停の体をなしていない。空地はごった返しのごった煮の阪神タイガース8連敗後の西成地区みたいだ。着いたら朝食♪・・・と思ったら、運悪くバスはもう出発です。これよりギュウギュウ詰のバスの中～♪～by 榊原よしえ（夫がマヨネーズ食い過ぎで死にそう）～誰が知っているんだこんな歌～を歌いながら進むよ。隣の少年が席変われと言う。意味が分からんが、まあ良いだろう・・・と思ったら、いきなり「レロレロレロレロ～」窓から吐く。そうかと思うと30分後チャーハン（真っ赤！）を食い始め・・・お前は猫か！ 3時間30分乗車しバラビセ着。本日初めての食事、ダルバート（ネパール定食）食う。美味し。ツルーはトイレトペーパーを、私はサンダルを買う（150Rs：180円くらい）。このサンダル（ブランド名ROMEO）は私のお気に入り。3時間歩いてドゥルカ着。村の共同経営バッチェ（山小屋）に泊まる。でかい蛾が3匹鎮座し、飛ばぬよう乙女のように祈る。ロキシー買うが薄くて大変悲しい。悲しい顔をしていたら、親爺がウイスキーを1本ロキシーに投入。そういう問題ではないのだが、発酵工程で6回薄めるとノー・グッドだと教えられ、日本でまったく使えない雑学だ。ロキシーは3回まで薄めてよし！ちなみに本日はネパール歴で2068年である。元旦は西洋歴で9/17だそうだ。したがってここは正月気分まったくなし。

1月3日：バッチェではいつも甘いミルクティの後にチャウチャウ（インスタントラーメン）を食する。これが大変調子が良い。毎朝不変のメニューであり、余裕しゃくしゃくで歩くが、バッチェからツルーの携帯に電話あり「部屋のカギ持っていったでしょ・・・」。もう2時間歩いてしまったので引き返すのが無理なので、まったく知らぬ存ぜぬ親爺にこのカギを託す。昼食は囲炉裏端でダルバート。全く燻され燻製卵の体臭と化す。3000m超えると積雪である。16時

に本日宿泊のバッチェに着くが、これが恐ろしく質素である。旦那はその辺で風邪のため寝込んでおるは、囲炉裏端で赤ちゃんがウダウダしておるわ、大変貧乏くさい。気をつけろよ、野口英世（幼少時、囲炉裏で大やけど）みたいに「手ん棒や〜い！」とイジメられるよ・・・と君に説明しても分からんか。バター茶は苦手であり、まったくありがた迷惑で2杯いただく。ベットサイドに新聞から切り抜いた女性の写真がベタベタ貼ってあり、主人の敬謙な人間像を想う。風邪薬3日分あげるよ。

1月4日：予想通り赤ちゃんの大泣きをBGMで起きる。チャウチャウ食べ7時に出発しようとしたら、女主人が「ちょっと待て、ゆで卵を持っていけ」とのたまう。それは大変ありがたい、ぜひぜひ頂戴頂戴であるのだが、隣家に行って生卵をもらってきて・・・おもむろにゆで始めた。すさまじいビスターリである。さすがにツルーも苦笑い。待つこと1時間。ものすごい嫌がらせである。まあ、美味かったけど。8時出発。道案内をお願いしたかった小屋の親爺は風邪治らず。積雪多く、大いに道が分からんよ。昨年もそうであったが、3000m超えはしっかりした靴とスパッツが必要。ガンバレ、ダイエーで買った3900円のスポルディング。ツルーよ、君も学習出来んのかね。二人とも大いに足が冷たい。14時カリンチョック(3759m)着。ヒンズー教の聖地であり大変厳かな気分で参拝しなくてはならないのだが、ヒンズー教・・・それは大変ゴミ(お供え物)が多い教えである。お供え物にギャーギャー群がるカラスども・・・日野日出志の怪奇マンガの様だ。寒いよ。頂上直下に巡礼者の宿泊小屋(立派)を建設中。作業小屋でお茶いただくが囲炉裏で燻され、また燻製卵の体臭。子供の鼻汁が芸術的に伸びる。ここから1時間でクーリーカルカ着。ガイド本「ネパール・ピークハント・トレック」には田舎の味わい深い写真が掲載されていて、実はその写真が気に入りこの山を選んだのだが、大観光地化の波である。ツルーが宿泊先候補のバッチェ(もうホテルと言って良い、宿泊料金1000Rs)に立ち寄ったが、私が気に入るわけもなく、さっさと次のバッチェへ行く(ここは400Rs)。囲炉裏あり、マゾ的に燻されたい。バッチェの子供が先に燻されていた。もうカサカサである。ロキシー3杯飲んで幸せ。今夜のダルバードはニワトリ潰して秀逸。今夜の囲炉裏端は、親戚の叔母さんがインドから帰省してきてお祭りの様相であった。

1月5日：7時起床、7時30分チャウチャウ(ちょっとゆで過ぎ)。今朝はランタンやガウリンシャンカール、メンルンチェなど7000m級の山々が堂々と見える。写真をバカのように撮る。チェキゴ(6257m)は登ってみたいと思ってい

たピークであったが、ガウリンシャンカールの近くで小さくなっていた。これを登るのはどうであろう。11時に昼食代わりにボリボリとインスタントラーメンを食べたが、見事に腹を壊した。畑の真ん中でズボンを下す。13時30分チャリコット着。ドラカまで行くつもりであったが、本日「バンダ（ゼネスト）」でバスなし。ドラカまで歩いて2時間だが、もうやる気は失せ「ツルーよ、ビールだ、ビールだ！」で沈殿。ツクパ（うどん）とビールで満足である。なぜこんなに質素であることが幸せか？ 靴下臭く買いに出るが、気に入ったものなし。夜中、トイレの紙流れず泣く。ネパール式トイレはわずかな紙でも芸術的に詰まらせる。いまさら痛感。

1月6日：バスで移動。バス停間違え、席が確保出来ないところであった。であるので、き〇がいスピード狂バスの運転席の隣であって、ここは大変危険である。しかも腹は下り、いつ刺し込むかハラハラ・ドキドキで昼食にダルバード（長い髪の毛入りのサービス）でますますもって腹に悪い。7時間の乗車でカトマンズ着。宿はバクサンタプルに取る。観光客の多いタメルは嫌いである。450Rsの宿泊料でシャワーからお湯が出てきて、ものすごいラッキーである。夜、当然停電の中、いつもの居酒屋へ。いつ飲んでもこのロキシーは頭が痛くなる。

1月7日：ツルーの家で、ダルバードをごちそうになる。ダル（豆）スープは日本の100円ショップのお椀。自家製ロキシーも飲んで幸せ。ツルーの子供3人にお年玉をあげる。ちなみに長女は現在、福岡で語学学習であり不在である。父は仕送り大変なんである。

1月8日：タケちゃん（柳原武彦氏：コスモのスタッフ）と昼食ご一緒したり、初めて「華ガーデン（露店風呂：日本人経営）」行ったりする。ネパール人が「タト！タト！（熱い熱い）」を連発し風呂で騒ぐ。夜中のフライトであるが、もう帰国か。また一年臥薪嘗胆で仕事だ。

1月9日：香港経由で帰国。とりあえず千歳で納豆ソバ食う。ネパール帰りであり、日本の物価にただただ驚く。寿司は食えんよ。

さてさて・・・2013年のネパールは、チュルー最東峰（6038m）を計画中です。早々に千葉さん、尾谷さん、小野睦夫さんの航空券は購入しており、一人旅もまんざらでもないのだが、道連れが多いのもまた楽しい。

以上